

「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」自己点検評価・報告書

下記の到達目標において、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）の取り組みに係る自己点検・評価結果を示す。

「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の学修成果

「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」では、これからの社会が求める次の能力を身に付けることを目標とする。具体的には①新しい価値の創造に主体的に関わる力、②AI 情報リテラシー力、③情報活用能力である。また、次の3点を学修成果としている。

1. 数理・データサイエンスやAIについての基礎的知識を修得し、さらにこれらを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。
2. 現代における数理・データサイエンス・AI の役割について理解して、説明できる。
3. 数理・データサイエンスやAI を利活用する際の留意すべき事項(個人情報、データ倫理など)を理解して、説明できる。

- ・評価日：2024年4月8日（月）
- ・評価組織：全学 AI 教育推進会議(専門部会)
- ・評価対象：2023年度後期「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を構成する「AI 活用入門 A」、「AI 活用入門 B」、「AI 入門演習」について

自己点検・評価の視点	取り組みと評価
1. プログラムの履修・修得状況	「OGU 数理データサイエンス・AI 教育プログラム」は令和5（2023）年度から開始され、プログラム履修者は23年度生の117名である。また、プログラム修了条件となる「AI 活用入門 A」および「AI 活用入門 B」の両方の合格者は、117名のうち16名（合格率13.7%）であった。これは、このプログラムが開始されたばかりであるので、学生にあまり認知されていないためであると言える。今後、オリエンテーションなどを通じて、周知徹底を図っていききたい。また、「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を修了した23年度生16名に対し、修了証を発行したが、今後「オープンバッジ」の導入も含め、学生の将来に役立つよう、検討を進める。
2. 学修成果	学修成果の把握、可視化について、直接評価と間接評価をあわせて多面的に行っている。試験、提出課題、ルーブリック、授業評価等による総合評価（100点満点）により把握している。直接評価としては、試験や小テストを行っている。特に OGU-Caddie を使用しての小テストは「AI 活用入門 A」及び「AI 活用入門 B」において、毎回行っている。また間接評価としては、学生による授業評価とルーブリック評価を行っている。「AI 入門演習」は少人数を前提とした実践中心の授業内容となっている。この特性を活かして、個々の学生の理解度を直接確認しながら演習を進めている。また、知識の定着と確認のため、毎回小テストもしくは実験レポートを課している。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和5（2023）年度の授業評価アンケートによると「AI 活用入門 A」における学生の理解度は、5段階の中で3.9である。この値は平均以上であるが、さらに向上させていきたい。「AI 活用入門 B」における学生の理解度は、「AI 活用入門 A」と同じく5段階の中で3.9である。しかし、最終レポートの内容における学生の考察は、あまり深く踏み込んだものとはなっていないため、個々のスキルアップを行うように指導していききたい。「AI 活用演習」では、「AI 入門演習」の理解度は受講者全員が5段階中の5と回答した。この高いスコアを維持できるよう努めたい。

自己点検・評価の視点	取り組みと評価
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	今後、学生アンケートに「後輩等他の学生への推奨度」を測定する項目を導入して、計測する予定である。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数、履修率の向上については、令和6（2024）年度より、「AI活用入門A」1クラスを3クラスに、「AI活用入門B」1クラスを3クラスに、合計6クラスへ増加した。これにより履修者数を大幅に増加させることができる。
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	現在、教育プログラムが開始されたばかりであり、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価はできていない。今後、このプログラムを履修して修了証を取得した学生の卒業後の進路・就職状況を把握するシステムを構築する予定である。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、平成21（2009）年7月に企業経営に携わる大阪学院大学卒業生を主な会員として、「大阪学院フェニックス倶楽部」が設立された。倶楽部の設立以降、会員相互の交流を通じ、在学生のキャリア形成支援、地域社会への貢献活動を実践しており、近年は「社長直伝プログラム」、「後継者育成支援講座」、「ビジネス交流会」などが活発に行われている。そこで、「大阪学院フェニックス倶楽部」からの本プログラムへの意見聴取や、外部評価の機会を得ることにより、産業界からの視点を含めた教育プログラムの改善に役立てたい。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業において、実際にChatGPTや画像生成AIを使用することにより、学生の興味を引くと共に、「学ぶ楽しさ」を理解させる。また、こうしたAIが実際に企業において利用されていることを教えて、この技術が社会に役立つことを理解させて、「学ぶことの意義」を理解させる。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「全学 AI 教育推進会議（専門部会）」において教育プログラムの改善について検討を行い、LMSであるOGU-Caddieや動画を活用することで、授業のハイブリッド化を積極的に推進し、学生の注意を効果的に惹きつける。教育改善活動として、教育開発支援センター主催により令和5（2023）年度第1回FD・SD講演会を「AIの進化と大学の教育・研究」と題して開催し、学内教職員の理解を深める機会とした。また、同年11月には「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」近畿ブロックへ加入した。さらに文部科学省から発表された「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」を受け、教職員向け、在学生向けの方針を策定し、公表、周知している。

以上